

件名	第9回常磐公園改修事業基本計画検討懇談会		
日時	平成24年8月9日(木) 10:00~12:00	場所	旭川市職員会館 3階 6号室
出席者	<p>【出席委員】</p> <p>石崎委員、大野委員、寺島委員、成田委員、松野委員 丸山委員、宮崎委員、八重樫委員 松倉委員欠席</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>北島氏(都市計画学識者)、中村氏(樹木医)、藤原氏(林産試験場) 宮本氏(立木調査実施者)、竹内氏(公園緑地協会) 藤山氏欠席</p> <p>【事務局】 旭川市土木部公園みどり課 太田課長、星係長、柏倉主査 大久保主査、濱地主任、高田</p>		
資料	<p>(資料1) 常磐公園改修事業 基本計画(河川空間ぬき)</p> <p>(資料2) 常磐公園の緑の計画</p> <p>(資料3) 「常磐公園改修事業基本計画(案)(河川空間ぬき)」に対して寄せられたご意見と本市の考え方</p> <p>(資料4) 第9回常磐公園改修事業基本計画検討懇談会</p>		
<p>《概要》</p> <p>1. 開会 2. 事務局挨拶 3. 委員長挨拶</p> <p>【議事】</p> <p>委員長が議事進行。事務局より「常磐公園改修事業基本計画(河川空間ぬき)」についておよび「常磐公園の緑の計画について」の概要説明。</p> <p>(委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市が提案した部分、またはその他の部分でも構わないので指摘や意見をいただきたい。</li> </ul> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常磐公園内の倒木については驚いた。けが人が出なかったことは本当に良かったと思う。倒木があったことにより、公園の中の樹木についてのこれからの管理や手の入れ方をきちんと見ていかなければならないということ、倒れた木は私たちに教えてくれたのではないかと思う。今後の対応の仕方が重要になっていくのではないかと思う。それは常磐公園だけでなく、旭川市内の公園も心配する部分がある。この事を思うと、公園全体の樹木に対してどういう手入れをしていったら良いか、倒れた木によって知らしめられたのではないかと思う。</li> <li>・資料4の1ページの別ステージで河川空間の検討委員会がこれから行われるということになるが、樹木の専門家の方達が複数となっているが、樹木の専門家というのはどういう方達の複数を指しているのかということ具体的に教えて頂きたいと思う。</li> </ul>			

(事務局)

- ・基本的には樹木医の資格を持っている方もしくは樹木に関する専門知識を持っている方などを複数名で考えている。

(委員)

- ・資格のある方という考え方で良いのか。

(事務局)

- ・樹木医については資格があるので、資格を持っている方ということです。

(委員)

- ・専門家ということになると資格があつて当然だと思う。樹木医が1名ではなく複数と考えて良いのか。

(事務局)

- ・今のところ樹木医は検討中なので、該当する人物が複数いるかどうか、なるべく多くしたいとは思っている。

(委員)

- ・できれば、1名ではなく、2名以上の専門の方が入った方が良いのではないかなと思う。
- ・専門家ではないが、旭川市には自然共生ネットワークがあり、その中に、環境や緑について治療に取り組んでいる所もあるので、少し広げてそういう方達にも中に入れてもらうという事も考えていただきたいと思う。そういう意味では資格云々ということもあるが、より地元に関心の深い方達にも入っていただきたいと思うのでお願いしたい。

(委員)

- ・パブリックコメントだが、書いてこられた全員の資料に一通り目を通した。私が考えていたように、市民は常磐公園をよく見ているし、先のことをきちんと考えて意見を出しているということを感じた。

資料3として全員の意見が全文載っているが、資料4の中で、パブリックコメントの結果として、今ある緑、樹木を大事にしてほしいというのが50件、老木、危険木は伐採し時間をかけて更新をしてほしいというのが25件。これはまとめとしては、非常に荒すぎるのではないかなと思う。

例えば、危険木に関しては切った方が良いという意見が多いと感じたが、老木に関しては非常に多様な意見があったと思う。それをこのようにひとくくりにするのはあまり適切ではないと思う。全部が出ているといえば出ているが、多くの市民が目にするのは、この要約されたパブリックコメントの結果だけが先に届くことになる。そうすると、まとめと出された意見との間には大きなギャップがありすぎる。出された意見が良いか悪いかは別として、内容をもう少し丁寧に。例えば、複数以上ある意見については一つの項目にまとめるような丁寧な整理の仕方が必要なのではないかなと思う。

(事務局)

- ・結果については資料3を公開するものと考えている。枚数があるので、要約をする必要があるとすれば、概要版を作っていく。その場合にはもう少し細かにやっていこうと思っている。

(委員)

- ・資料に『時間をかけながら』という言葉が出てくるが、資料2の5ページに、2-2-2の緑の維持管理の現状についての中で、6ページの上段、「公園樹木の維持管理は、財政状況に併せて最小限の維持管理が中心となっていた。」ということ謳っている。何事もお金がかかることである。市の予算は一年一年の予算だと思うが、時間をかけてということになると長期に渡ってこういうための予算が確保されるかどうかである。資料3の中にも、今までの管理が十分でなかったという意見がかなり多くあった。これはやはり、やりたくても予算が無くて出来なかった部分も半分以上はあるのかということも考える。将来、時間をかけながら今のものの改善や再生は可能なのだろうか。出来ないものを謳っても担当の方が大変だと思う。その辺はいかがだろうか。

(事務局)

- ・そういったことも含めて、今後は加筆修正した部分、緑の維持管理更新計画と言うものを作っていかなければいけないと思っている。

時間をかけながらきちんとしたスケジュール感をもって、各年度ごとにやらなければいけない事をきちんと決めて、限られた財源の中で出来るだけのことをやっていく。市民協働ということで、市民の力を借りて、例えば一緒にパトロールして、その中でこの木は危険な状況になるかどうかという情報を共有化した上で、来年はこの木を伐採するというような、きちんとした情報を皆さんが知った上で計画を実行していくという形が必要になってくると思う。

(委員)

- ・お金がかかるという考えをよけて、日々見ていくということで、そこに市民も参加していくという目線でいくことが、これからの常磐公園を健全にしていくと思う。

お金がかかる部分もあるかもしれないが、そのことを含めてかけなくてもきちんと出来るような部分もあると思うし、老木だから伐採の対象になるのか、あるいは樹形が悪いから伐採の対象になるのかと言ったら、その目線が少しさみしいような気がする。手を入れてあげることによって、この環境が次の世代に渡してあげられるようなという目線で見えていくということが、これからの管理の在り方の一つではないかと思う。そういう意味では、早めに手を入れていくことで、きちんと樹木の命が守られていくような感じであってほしいと強く願っている。

(委員長)

- ・そういう意見をパブリックコメントの中から汲み取っている部分もかなりあって、資料4の最後に、維持管理・更新ということを追加してある。計画なので、私たちが今まで議論してきたことは、基本的な方針を示している部分であり、それを具体的にするにはさらに細かい計画が必要だということで加筆をしようという意図がある。その部分についてはどうか。

(委員)

- ・良いと思う。それで常磐公園のあるべき姿である。あるべき姿を頭の中でイメージしておかなければ、そこが空論になってしまうという意味で、皆さんで共有したいと思う。

(委員)

- ・委員長がおっしゃっていたような条文の変更という所まではいっていないが、今回のパ

ブリックコメントを読んだ感想、意見を述べたいと思う。

- ・今回の意見を述べたのは86人ということだが、実際には一人の方が多項目に渡って意見を述べているということから、実際には100件くらいの数になるのかと思う。
- ・緑に関係のない意見が、私の判断では7件くらいというふうに思う。そうなるほとんど大部分が緑をどうしようかという意見になっていると思うが、内容を見てみると、「伐採に対し反対します。」あるいは否定的な意見というものもあったが、相対的には切るものは切って、植え替えて後継樹を育てていってはどうかという意見も多く見られた。市民の意見は非常に健全性が高いなという気持ちで読ませてもらった。結局、市民の意見というものが、公園というもののどこに軸足を置いて意見を述べるかということによって、思いは様々変わってくると思う。今回のように多様な意見が出てくるというのは、ある意味大変望ましい形であった、当然であったと思っている。これに対する市の考え方のまとめだが、私も若干不満がある。資料3に市の考え方があがるが、その中で、緑に対する考え方に対して、市の回答は全くのコピーである。関係する項目のほとんどはコピーで回答されているが、この辺は本当にこれで良いのかどうか、荒っぽいという印象を受けた。もう少し、親切できめ細かな説明があってしかるべきでないかと思う。
- ・古木とか老木とか、樹木の形質に対する話が出てきたが、これも判断が難しい部分があり、それぞれ10人に聞けば10人の判断があるというくらい難しい。老木といってもどこまでが老木なのかという判断、ここまでは素人の私がとやかく言ってもらちがあかない話なので、樹木医というような専門の方にお願いをするより方法が無いのではないかと思う。そして、老木だから切ってはだめとか、歴史ある木だからもう少し残しておいてはという話もあるが、公園という不特定多数の方が出入りするという条件の中では、安全性とか快適性、景観や生態系、そういうものを総合的に判断しなければいけない部分があるので、この老木や古木という事に対する判断は、私は良いとか悪いとかではなく、専門家に任すべき部分ではないかと思う。
- ・今までたくさんの意見も出してきたし、それによって計画もそれなりに修正してきた。私が一つ感じることは木に対する見方というものが人間のスピードに合わせて処理しようとしているところに一番問題があるのではないかと思う。100年200年かけてゆっくりと生長し、生きながらえている木に対して、私達がこのスピードの時代に合わせたように処理しようとしていることに、そもそも間違いが起きているのではないか。もっと植えながら育てながら、切りながらというようなゆっくりのリズムでもの見方をしていく必要があるのではないかと思う。

(委員)

- ・パブリックコメントの資料をいただいて、市民の皆さんが常磐公園に対して、本当に深い思いをたくさん持っているということで感銘を受けた。ただ、市の回答は全てと言っていいほど同じだったので、私も回答を読まなくてもこれは同じだという思いを持った。やはり、もう少しその方の思いを受け止めて、その思いに沿った回答があったら、個人的に嬉しかったと思う。
- ・景観をどのように残していくかということにつきると思うが、私も本当にわからない。

大丈夫だと思った木も今回倒れてしまったので、専門の方に科学的な調査をしていただくことが必要だと思う。そういうふうになった時に、資料4の5ページの「立ち入りを規制している150本の樹木」とあるが、二次診断を進めているというところで、樹木医の先生方をお願いして市の方と回られると思うが、できれば、この調査をする時に、市民も一緒に見て回れるようなそういう人達を2～3名一緒に入れてもらうということは出来ないのか。

(事務局)

- ・早急に対応が必要な150本の樹木は、現状では立ち入り規制をかけており危険なので、一般市民も入ってというよりは、樹木医の診断をきちんとしてもらった上で、そのデータを公開していきたいと思う。樹木医の診断ではコアを抜くなどの作業を進めていくので、立ち入らなくても診断結果については写真等で公開していきたいと思っている。

(委員長)

- ・今後の樹木の対応という市の仕事だが、このパブリックコメントを受けた上で、市民協働で丁寧に考えていこうという宣言をしながら、早急な対応が必要というところもあって、そういう意味ではどうですか。

(委員)

- ・樹木医がどういう科学的な調査をするのかを市民の目で見て知りたいというところがある。その中で、こういう事なのかと、こんなに健康に見えていても伐採しなければいけない木もあるのかなど。そういう場に参加させてもらうということは、市と市民との共有の意識を持って、常磐公園を見ていくということになるのではないかと思う。実際、素人は全く分からないので、そういう目線で見られる方も二人くらいいただければと思う。それで常磐公園の景観を守っていく方向に持っていけるのではないかと思う。

(委員長)

- ・市が提案している計画の加筆・修正についての赤字の所、先ほど文字の前に意見のまとめ方が少し荒っぽいとあったが、この赤字の修正はいかがでしょうか。

(委員)

- ・先ほどの意見の補足になるが、この細かい字の全文を市民の人がパソコンで見ることは大変だと思う。どうしても目で追うのはまとめたところで、その点では少し荒すぎる。ここは樹木のことしかふれていない。100年という一つの歴史の中で、常磐公園の緑を見ようという考え方がたくさん出ていたし、樹木だけではなくて、樹木との繋がり、樹木同士の繋がり、あるいは常磐公園の外部の樹木との繋がりというのを考えるべきだという大きなスケールで見ている人もいる。あるいは、もっと生態学的に生き物を中心にしながら公園を見るべきだという意見もあり、この二項目のくりでは乱暴すぎると思う。あらためて、樹木に限らず、先程言ったような視点を入れながら丁寧に整理してもらいたい。
- ・今回の倒木に関連してだが、樹木医も含めて二次診断が入って、危険であるか、老木であるか、様々な見解がなされると思うが、危険木という考え方と老木という考え方を一緒にくたにしないで、もっと丁寧にきちんと判定をしていただきたい。総合判断することになっているので、色んな要素が多面的に検討されると思うが、もう少し総合的

ということを客観化出来る部分をイメージしてほしいと思う。

例えば、空洞木についても、私が調べる範囲では、イギリスの研究者は空洞があっても壁の厚さが半径の3割以上残っていれば、すぐに倒壊するという危険は無いというデータも出ている。それを市民の目に見えるように提示する必要があるのではないかとと思う。

- ・ こういうふうに見ていくと、緑の計画がひとつの骨格になるという気がする。前回、緑の計画について各委員からの意見を委員の皆さんに提示してほしいということを要望していた。私もこの計画は非常に大事だと思ったので、6ページに渡って16項目にまとめて具体的に指摘した意見を挙げてあるが、一部は事務局とのやりとりの中で組み入れられたりしているが、どこまで入ったか入らないかは別として、委員の意見を皆さんに出されたのかどうか聞きたい。

(事務局)

- ・ 前回いただいたご意見については、まとめたものを皆さんにお送りしている。ここは組み入れてこうしますというものを送っている。

(委員)

- ・ どの部分が入るか入らないかというのは多少判断があると思うが、各委員がどんな意見を出しているのかを、採用するかしないかは別として、私自身としては知っておきたいということもあったので、前回お願いをした。

(事務局)

- ・ 前回、委員の方にお送りしたまとめについては、形式を変えているが、もらった意見を全て提示して、市の考え方として反映する・しないを回答している。パブリックコメントの前に委員の方に配った資料が皆さんの意見の全てとなっている。

(委員)

- ・ 私も意見を出したが、組み込まれている部分もあった。でも、他の委員の意見はあったのかなと思う。もし、差し支えなければ、今回はこんな意見が出されたということを見せていただくほうが良いと思う。全体の中に入ってしまうと、誰がこういうふうに言ったのかがわからない。誰というのは問題ではないと思うが、そういうことは私も思った。

(委員長)

- ・ 色々な意見を文字できちんと論理立てて伝えることが得意な方、そうでなくて口でお話しする方、あるいは、意見の中で同意をしたり疑問に思ったりというのは、繰り返し行ったり来たりをしながらものが進んでいくのではないかとと思う。パブリックコメントは市民の幅の広い意見が寄せられたことが健全だとあったが、それは間違いないと思う。
- ・ 今日の目的は少なくともパブリックコメントの中から抽出した意見を整理して赤字で書き加えた。その中に長い時間をかけて管理計画を作ろう、あるいは市民協働でという文言が入ってきていて、かなり進化していると思う。そこにピンポイントに当ててご意見をお願いします。

(委員)

- ・ 赤字の部分を否定するつもりはないが、これでは少し足りないかと。

(委員長)

- ・ 例えばどのように加えたら良いか。あまり長くするのもどうかと思うが。

ここにもうちょっと加えたらというのがあれば。

(委員)

- ・それは先ほど言った生態的な視点や歴史的な視点でということ。

(委員長)

- ・生態的などという意味では、修正が加えられた部分では足りないということですね。
- ・計画というのは抽象的にならざるを得ないが、結構深いところまで踏み込んでいると思う。今後実行計画の中で、これを読み取っていく場合に抽象的な部分を色んな解釈が出来るというのはなかなかかなりにくい。ある方向が示されている計画だと思う。さらに加えれば増えるし、細かくなると思う。それは計画の範囲を超えて、実施図面を作るという所まで入ってってしまうので、ある領域を超える前のところまでは専門外の私達が意見を持っていく。先ほども言ったとおり、量と質についてもかなり議論してきた。その辺りも踏まえてご意見いただきたいと思う。

(委員)

- ・全部に目を通させてもらって、このままで良いとは思っているが、この緑の計画を作成するにあたって、今日参加しているオブザーバーの方々の意見も当然反映されてこの計画になっていると考えているが、それはそれでよろしいでしょうか。

(事務局)

- ・我々が素案を示しながら皆さんの意見をいただいて作り直していつている。今までの皆さんの意見をまとめながら、今の緑の計画の形になっている。また、専門的な部分では、皆さんが疑問に思うところをオブザーバーに聞きながら今まで作ってきた。

(委員)

- ・専門家の意見も取り入れながら作った計画というふうに理解しているので、今、ここに出た意見や直接色々な意見が事務局に届いていると思う。それを入れてこの文章になったということを考えれば、これはこれで良いのではないかと思う。例えば、時間をかけながら緑の量の確保と質の向上ということになると、倒木があった時、どうしてもそこに木を植えなければいけないとなったら、若い木を植えることになるので、量は当然減るし、質も悪くなるけれど、時間をかければ元に戻るというように考えられる。

(委員長)

- ・どういう木を植えるかというのは、実行計画の中でこれから議論していくと思うが、小さい木を植えるということではない。それだけではない。

(委員)

- ・大きい木が倒れて、同じものが立つわけではないですね。

(委員長)

- ・時間をかけていこうとそういうことですね。

(委員)

- ・資料4の4ページの右側だが、150本立入規制し、周囲の安全確保。次のページに対応ということで書かれているが、これらも相当な時間がかかるのかと思う。立入規制し、周囲の安全確保ということは、ロープを張って市民に知らしめるという事になるのかと

思うが、今まで倒れても人身事故ということはなくてよかったと思うが、仮に立ち入って人身事故になった場合に利用者の自己責任にするのか、指定管理者あるいは市がこの責任を負うのか。私も公園を利用しているので、周りには子供もいて、万が一ロープの中に入って事故があった場合はどういう対応になるのか。

(事務局)

・非常に難しい問題だと我々も考えている。ただ、第一に配慮しないといけないのは、危険であるというのを把握している以上、市民に伝えて立ち入りをしないように指導するしかない。そこを指導しているにもかかわらず、中に入って事故が起きた場合でも、事故の根本的な原因というのが、そういうものを放置していたということ。公園というのは誰でも自由に出入り出来るということでいえば、自己責任という所だけではなく、我々の管理責任も問われるのかと思う。やはり、我々は責任を放棄するということは出来ないのではないかと感じている。例えば、ロープを張っただけでは入れるじゃないかと言われた場合、絶対に人が入れないようにぐるぐる巻きにロープを張ればいいのかとか、そういった議論になってくる。根本的には我々の管理責任だということもある。そういった意味では皆さんに注意を呼びかけながら、理解をしていただくというふうにしていくしかないと思う。なるべく早期に、樹木医に診てもらった中で、当面は大丈夫だろうとなれば立ち入りを解除するし、やはり危険だとなれば伐採して危険を排除するということをやっていく。診断結果を踏まえて、立ち入りの規制を広くする所と、解除する所が出てくると思う。

(委員)

・資料4の6ページ、主な意見の考え方というところがある。一番下の、『その他にも危険性のある樹木を伐採する場合には、更新木を植樹し世代交代を勧めていくなど、将来のあるべき姿を見据え、時間をかけながら緑の量の確保と質の向上を図っていく』とある。何年か前にポプラが何十本も倒れた。池の所だったが、その後すぐに木を植えていった。今、常磐公園を見ると、結構切っていただいたので見晴らしもいいし、景観も良くなっている。木を切った後にまた木を植えるということなのか。

(委員長)

・そうではなく、つまり、そういうことを丁寧に実施して考えていこうということ。

(委員)

・ポプラが倒れた時に、そういうことがあったので、今回も切ったところに植えるのかと、そういうことなら何もならないので、そこが知りたい。

(事務局)

・今後の実行計画の中では、更新という部分もふれていくので、これまで皆さんに緑について議論していただいた中で、今後、郷土樹種を植えていきたいと思いますとか、園路にはこの木がいいのではないのかという方針を示させていただいている。次の実行計画の中で、より具体化させて適切な配置間隔を保ちながら、今までの反省も踏まえ、どのような木が良いかを実行計画の中で検討した上で、今後植えていきたいと考えている。

(委員)

・実行計画の中で具体的になっていくということで、そうなると、常磐公園の資料4の8



ページだが、赤字の中に、『将来のあるべき姿を見据え、時間をかけながら緑の量の確保と質の向上を図り』とある。あまり具体性がない。この、将来のあるべき姿を見据えというのは、私なりに資料1の15ページの常磐公園の改修事業計画の緑を守り育てるというテーマ、4つ出ている。『安全』『快適性』『景観』『生態系』。その4つが常磐公園の将来を見据えたあるべき姿だと思う。そうすると、このことを共有して、これに近い形で、どういう公園にしていくのか、次の具体的な計画はここにかかっていると思う。

(副委員長)

- ・常磐公園は都市公園だということを意識しながら、今回の倒木を含めて、公園というのは安全な場所であるということは大前提であると思っている。その中でパブリックコメントを通して緑の計画というのが中心的な話題となっている。
- ・昔の人がどういう思いで木を植えたのかということを考えてみると、40年くらいで非常に高くなる木で、電線などを飛び越えて大木になる。そうなっていくと、それなりに維持管理等、電線に触れるようになって困るとか。昔の人は、当時の感覚としては境界線に木を植えていって、境界線をはっきりさせていこうとか、そういう観念があった。当時は、今の私達が直面している問題の以前に含まれているので、私達はこういったことが起きるのだと体験している。これから50年100年過ぎたときに、この植えた木がこうなるのだとイメージできるようになったし、そのことを理解しながら、公園整備を進めていこうというのがこの懇談会の総論になっていると私は理解している。
- ・今回の改訂の中で資料2の30ページの所に、緑の計画への加筆ということで(仮称)緑の維持管理・更新計画の策定という見出しの中で、一文を書き加えたのは、非常に意味のあることではないかと思う。

資料4に「(仮称)緑の維持管理・更新計画を策定し」とある。これは市の方であれば何らかの形で思っていると思うが、改めてこれを重要視しながら、熱く向かっていかなければならないということを精神として謳っているものだと思う。私達はこの場でその主体を決めていくのは困難な段階なのではないかと思う。あくまでも基本計画策定という理解なので、これはこれで、タイムスケジュールがどうなるかというのが重要になってくるが、そういった意味では、今回でひと区切りの時間を迎え、評価できる意味のあるものと受け止めている。

(委員長)

- ・オブザーバーの方で、パブコメをご覧になって、あるいはこの修正箇所に入れた市の意思などに対して何かあればお願いします。

(オブザーバー)

- ・パブリックコメントを読ませていただいた。その間に木が倒れるという事故があり、それがなければ少し状況が違ったかなと思ったが、その中でやはり危険木は出来るだけ処理してほしいという意見も出ていたし、切り株を見ていると、古い切り株がたくさんあるので今までも切ってきている。でも何本か切っても、ここの景観が変わったというふうには見ていない。ほとんど変化がない。堤防の周辺も24本伐採しているが、ドロノキを切って多少変化があったかと思う。その下の平場の部分も4本くらい伐採されているが、その部分だけ少し隙間ができたかなというそんなイメージで見ている。という

ことは、過去にも景観という問題も視点で含めて考えても、最初に私がオブザーバーで参加したときに申し上げたが、都市は常に変化しつつ動いている。それが次々と変化するが、我々はあまり気がつかないままでそれを見ているという可能性があるので、公園の問題にしても、木を切って更新して新しい木を植えるということも含めて、ある程度計画を持たなければいけない。そういうものだというふうに理解すれば、我々はその一瞬に生きているというふうにいった方が良いと思う。その点はあまりノスタルジックに考えない方が良く、そういう意見も持っている。私と同じような意見を持っている人は他にもいるようだが、そういう理解でパブリックコメントを見ていた。

- ・池の水の問題を指摘する人もいる。駐車場を増やしてほしいなど様々な施設的な問題を指摘している人がいる。これについて、どう実施計画の中で話していくか、すでに絵としてはあったようだが、実際出来るものかどうかは私としてもわからないので、そういうものを全体に織り込みながら進めていくべきだと思っている。

(オブザーバー)

- ・拝聴していて印象に残ったのが、木に対する考え方が人間のスピードに合わせていないかと、私もまさにそうだなと思う。
- ・診断の風景、実施に立ち会いたい。これは市のこれからの実行計画の中で、色々検討されていくと思うが、私はこれについてはやぶさかでないと思う。これから未知数である危険木については、どういう状況に巻き込まれるかわからないので、こういうものは特殊として診て事後報告も出来るわけで、普段、市民の方の協働の中で、時々、専門家を招いて、どういうふうに健康状態を確認しているのかということ、日を設定して、一人や二人に限らず、公開診断というものをやっても良いのかと思う。

老木、古木、大木など、これらも公園の中では役割があると思う。何でもかんでも切り詰めるばかりが、風圧とか力学的な抵抗を回避することにはならないと思う。公園の中で大きな木というのは遮へいの役割もしている。ビル街の中の特殊な空間として、しきりの役割を持っている場合もある。相対的に物事を考えて、色々知恵を出し合って、公園としてどうしたら成り立っていくかという中での診断になるかと思うので、木を一本一本診ていく間に、当然、理屈一辺倒で切るとか切らないとかそういう方向ではなくて、ここに生えているこの木はどう扱うべきか、そういうことの総合的な診断というのが不可欠かと思う。そういうことで、やはり特に大きな木というのはそう早く結論を出せるわけではないので、時間も必要になってくるし、市もそういうことを期待して、今後、専門家も含めて皆さんに公開できるように実行に移していくと思う。

(オブザーバー)

- ・昨日、調査に行っていましたが、木をみるのに専門的知識などいなかった。何やっているのですかと市民の方が近寄ってきて、これはこういう状態にあると言うと、ほぼ100%納得してくれた。「観察する目」それから「よく考えること」、「若干の知識」はいるが、知識もこういう状態ですよということで、上から下までよく観察すれば、誰でも分かることである。どんな状態になっているか、難しい話ではない。
- ・老木だから切るという判断はどこにもない。危険だから切る。確かに、老木の中には危険なものが多いが、年をとったから切るなんて判断はしていない。書き方が、老木・危

陰木という書き方にしているからということもあるが、樹木の調査票では、老木だから切るという判断は全く無いということをつけ加えておきます。

(委員長)

- ・どちらにしても総合的な判断を誰かがしなければいけないという話があって、客観化する方法を問題提起していただいたが、おそらく客観化するということは点数化するとか、世の中では成績をつけることなども含めて、総合化という判断そのものに客観性を持たせるために特別な要素も含めて点数化してということも起こる。計画が抽象的だから客観化するために数値を入れながら、100%だから危ないとか、専門家の方からそんなの素人でも分かるということもおっしゃられたが、専門家のある一定の判断が必要なのではないかと思う。判断をしていくということは、他の可能性を捨てる勇気が無いと判断できないので、そういう場面にこれらになっていくと思う。緑の問題というのは、私達の暮らしに深く関与している。よそ様の公園の話ではなく、家の木にも直接、あるいは間接的にも関係していく話だと捉えて、たくさんの市民の方に心配されているなか、こういう計画でいこうという意思を確認してきたが、大きな流れとして私は間違いないと思う。これから、実行に移すには判断がさらに色々な意見が寄せられると思うが、この軸はぶれずに進めていっていただきたいと思います。

(委員)

- ・確かに数値表現をするのが良いかどうかというのは、あると思う。ただ、私が先ほど言ったのは、具体的な意見でいうと、例えば、河川と公園の一体化という言葉が今回、文化芸術ゾーンであった。河川空間との一体化ということで、私が言った意味は、今は川と公園との間が、コンクリートの階段で、無機的に仕切られている。ああいう状態を解消して、川と全体的に繋がるようなそういう一体化ということを述べたのだが、河川空間との一体化という言葉だけが残って、解釈としては緩傾斜による一体化というものに置き換わっていく可能性が多々ある。そういう面で、話を数値化する必要はないと思うが、もう少し中身を明確化するというような、抽象化といたら変だが、そういう表現が必要なのではないかということが先ほどいったことの中核である。
- ・基本計画の中で、10ページに現状の課題の整理とあり、いくつかの項目がある。今回のパブリックコメントの中で意見があったが、どこが問題なのかという課題点を抽出する必要がある。これは大事なことだとは思いますが、その前に、マイナスの評価だけを出してそこから問題を抽出するのではなく、プラスの評価も併せて調べて、その中でどういう部分を増やしていくのか、どの部分を改めるのかということの判断をしないといけないと思う。この10ページの所だけに限って言うと、マイナスの部分だけが取り出されてこの課題が出てきているということに危惧しないわけにはいけないので、そういうトータルな面が大事だと思う。
- ・公園をゾーンに分けているが、ゾーンに分けるというのは一つの特徴を捉えてどのようにするかというのには非常に有効な方法だが、逆に言うと、その部分だけに特化して、そこだけに目が移らざるを得ない。常磐公園のように16ヘクタールしかなく、その中に池があったり、グラウンドがあったりする状況の中では、ゾーン分けだけで考えてしまうと、とてもおかしな事になってしまう可能性がある。ゾーン分けはするにしても、

基本や全体としては、公園全体の緑をどのように扱うのか、周りの緑とどのようにつなげるのか、生き物とどうつながるのか、その部分を明確にする必要があると思う。

(委員長)

- ・今おっしゃったことは、記憶をたどれば、最初の回に常磐公園を点検していこうという話になった時に、点検すれば変なところがすぐに見つかる。おかしい所はとてよくわかっている。むしろ良い所がたくさんあるはずで、こうすればもっと良くなるという視点で見ようという話をした気がする。確かにこの書き方は、課題の整理になっているが、背景としては常磐公園を大切にしたいという思いが繋がっている気がする。
- ・線引きで違うゾーンだから違う方向にということは誰も思っていない。全体としての軸足はぶれていないと思う。文章の書き方によるが、そういうふうと思う。
- ・まだ色々なご意見があると思うが、ある意味では方向を示したというふうに思っていたきたいと思う。

(事務局)

- ・お陰様を持ちまして、常磐公園改修事業基本計画（河川空間ぬき）がまとまったかと思えます。課題の部分ではマイナスなイメージもあり、それを問題点として考えているが、大きな計画のテーマとしては資料1の13ページに書いてあり、「地域資源を活かした文化・芸術と落ち着きのある緑地空間による魅力ある公園の創出」というように、そうするためにはこの課題をどう解決していったら良いのかという所から議論が深まった。やはり、緑の議論が中心になっていたため、常磐公園の魅力というのは緑だということがよく分かった。

常磐公園の特性を活かすには、この緑をどう守り育てていくか。緑を守り育てていくというのが緑の計画のメインテーマにもなっている。細かな部分については今後も維持管理・更新計画の中に盛り込んでいくが、基本的な更新というのは落ち着ける緑地空間、そのための緑を守り育てるといったことを大きな理念として、細かな部分の計画として進めていきたいと思っており、同じように河川空間の整備としても、こういった理念をその中に落とし込んでいくという作業になっていくと思うので、今後ともご協力をよろしくをお願いします。

以上